

景況動向指数(Diffusion Index)

(2024年7月～9月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調査対象事業所

長浜市商工会 管内100事業所

製造業(20事業所)

建設業(20事業所)

卸小売業(20事業所)

飲食宿泊業(20事業所)

サービス業(20事業所)

*調査期間 2024年7月～9月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関する目的で実施した資料です。

* D Iとは？

本報告書の中で%以外に用いているD I指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D Iが+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業50%、不变企業30%、減少企業20%の場合、

D I指数・・・50%-20% = 30となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

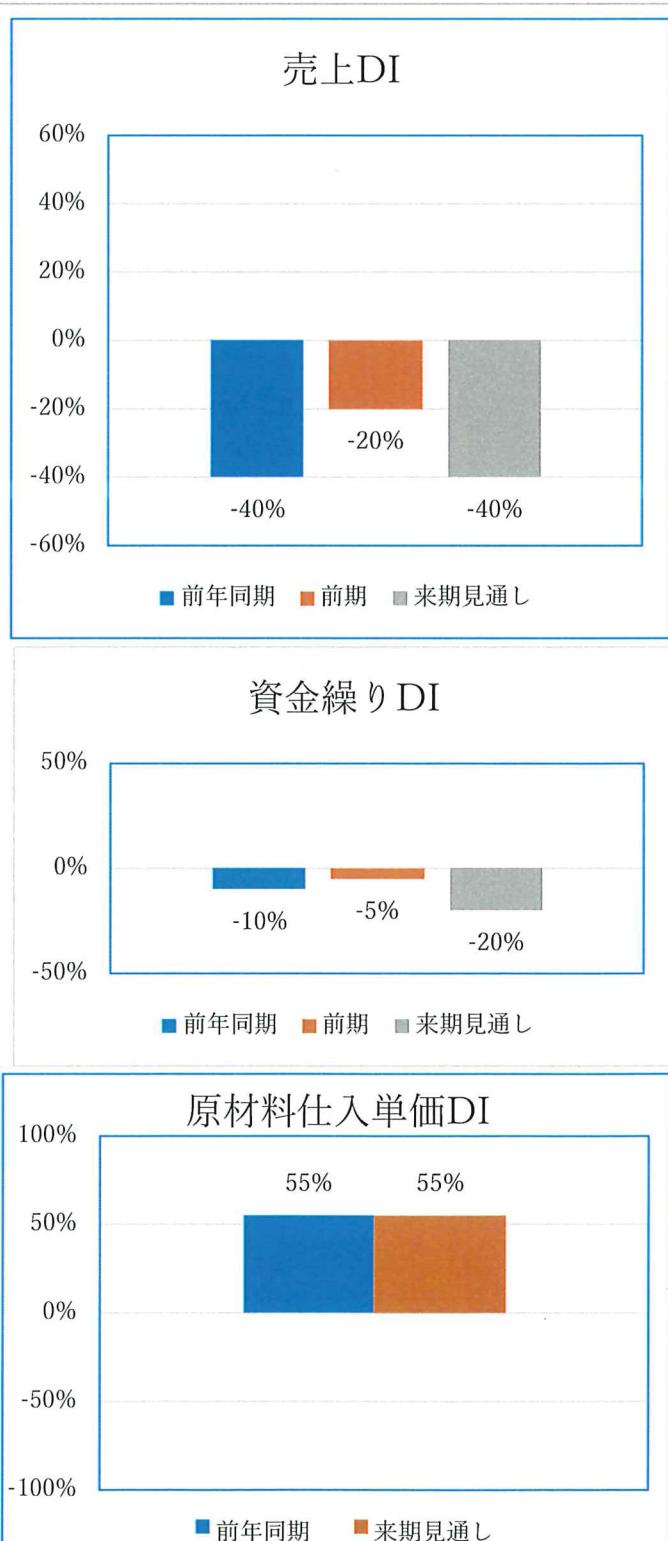
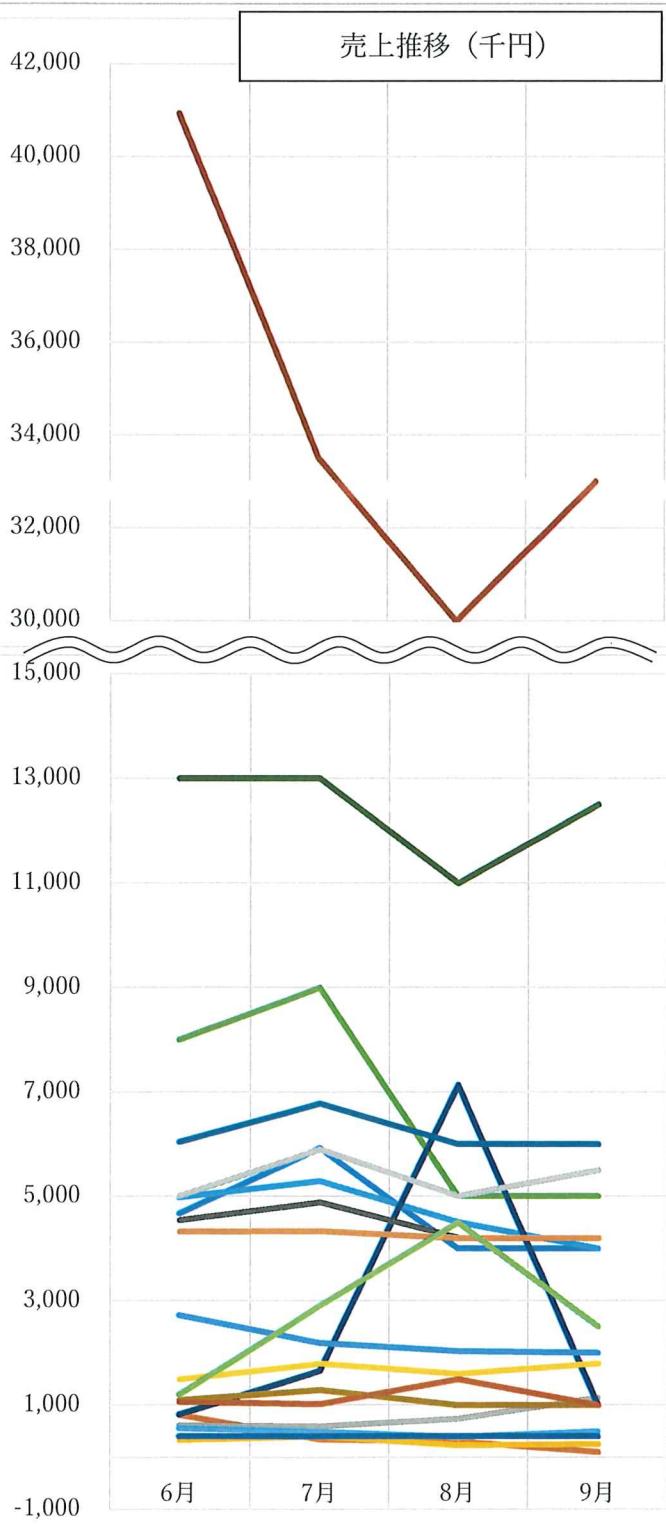
製造業（2024年7月～9月）DI値抜粋

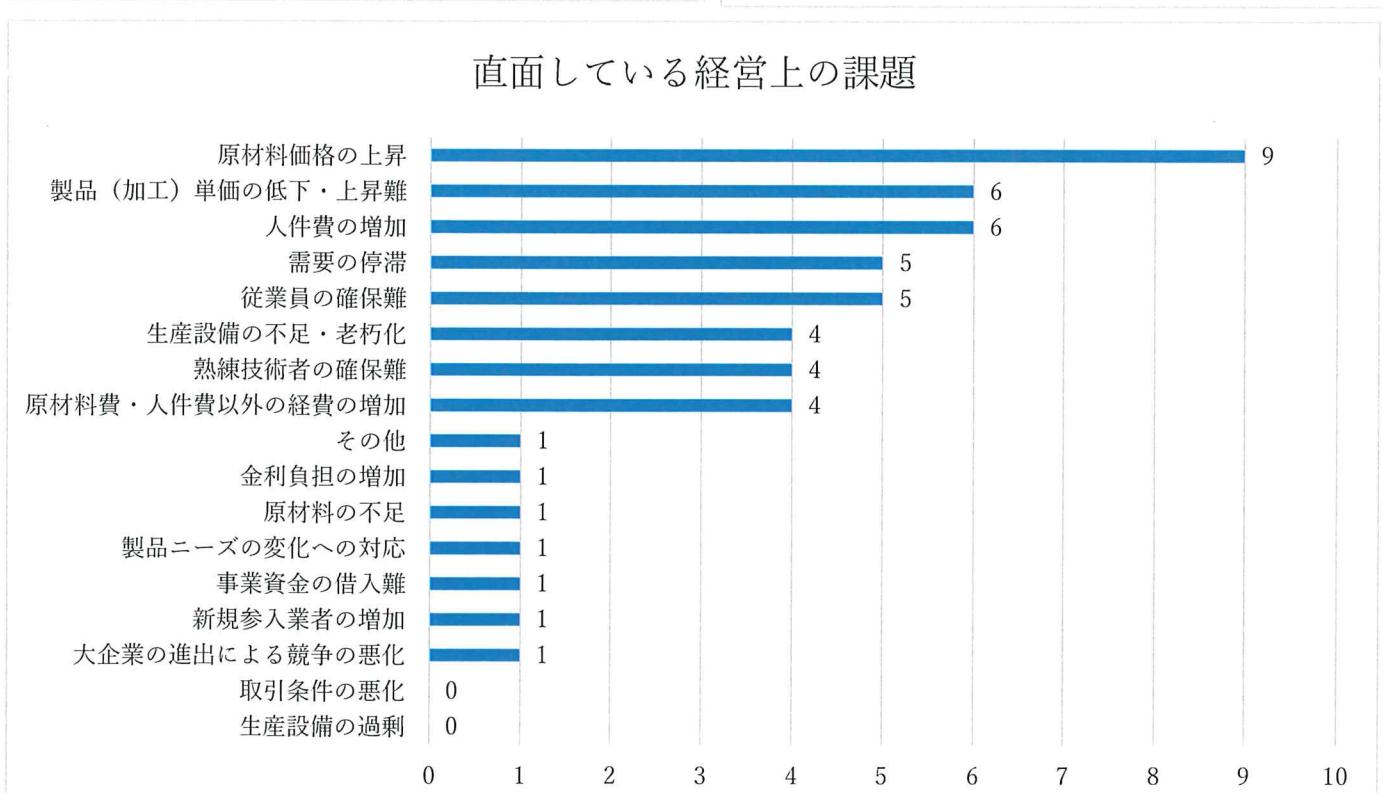
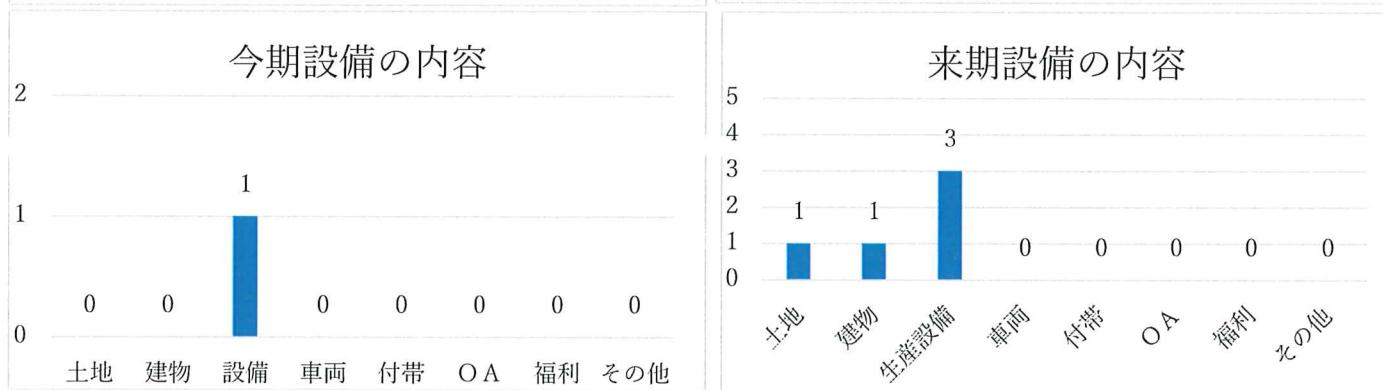
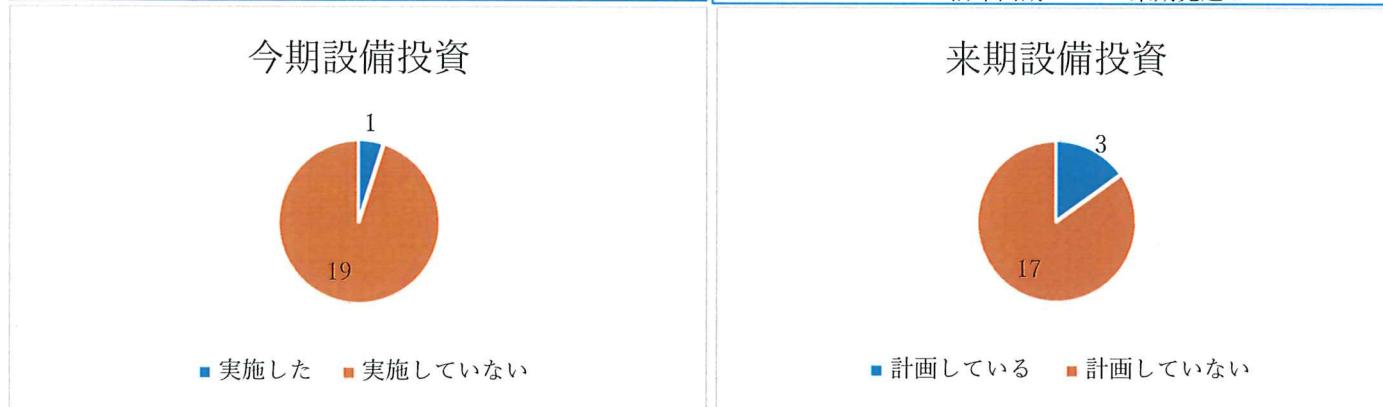
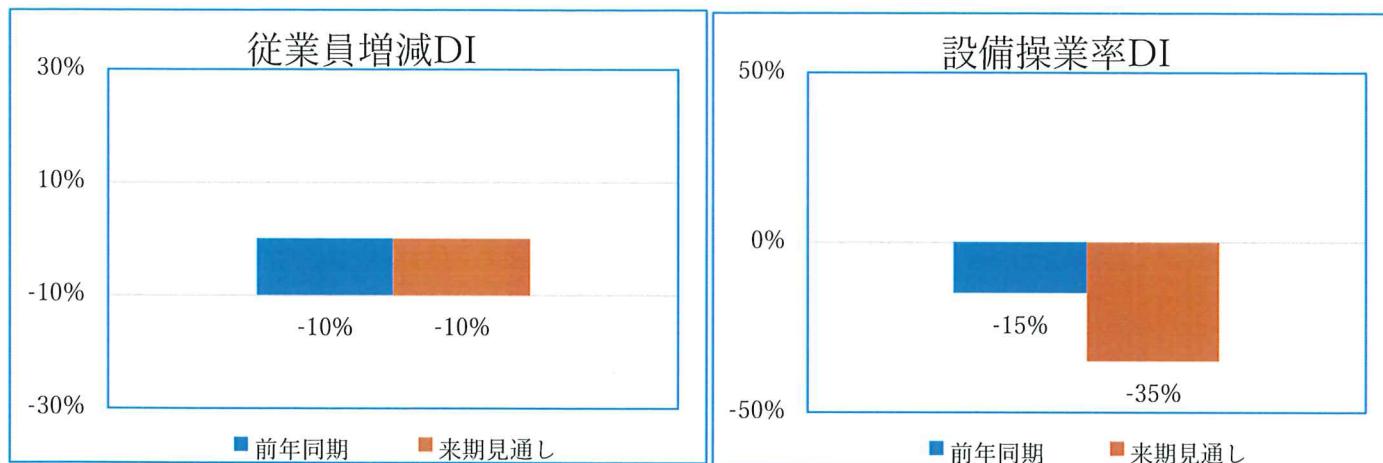
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、他業種と比較して厳しい低下傾向である。足元、先行きとも厳しい声が多い。

売上DIは前年同期▲40、前期▲20、来期▲40と低下傾向が止まらない。資金繰りDIは前年同期▲10、前期▲5、来期も▲20と低迷している。原材料仕入単価DIが高止まりで、前年同期+55、来期見通しとも+55と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。従業員増減DIは前年同期▲10、来期見通しも▲10と低調な動向である。設備の操業率も低迷しており前年同期▲15、来期▲35の状況である。

設備投資も今期、来期とも低調である。直面している経営の問題として、原材料価格や人件費の上昇、製品単価の上昇難で価格転嫁が難しい声が多い。個別の声として、物価高の高騰によって、工具、オイルなどの価格上昇になる一方、製品単価は上昇しない。原材料の値上がりは落ち着いたが売上は減少、人件費が増加し収支を圧迫。ベテラン従業員が不足しており効率の高い従業員確保が課題である。最近はメディアに取り上げてもらいたい業況の好転はあるが今後の円高など世界経済の見通しを考えると楽観できないといった声があった。





建設業（2024年7月～9月）DI 値抜粋

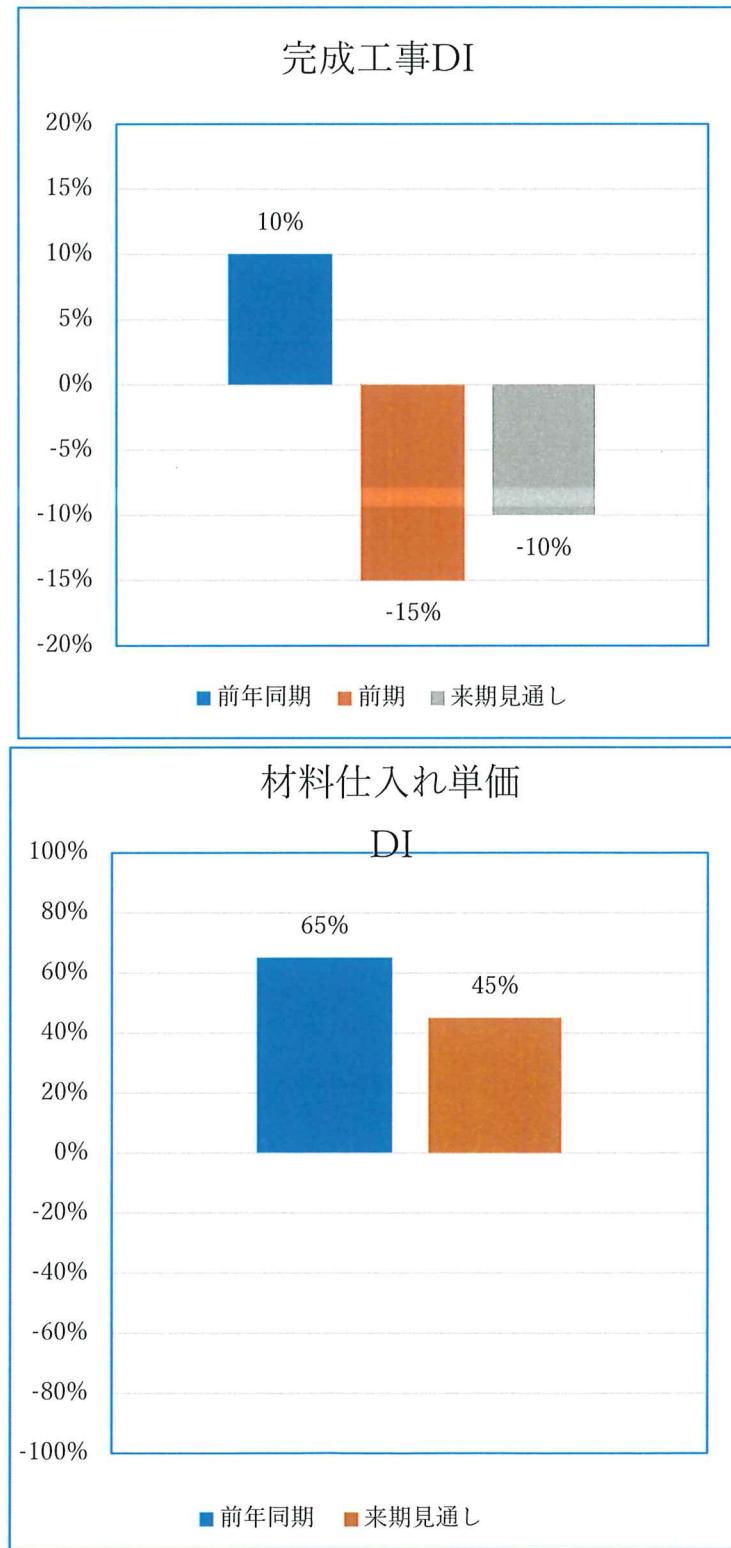
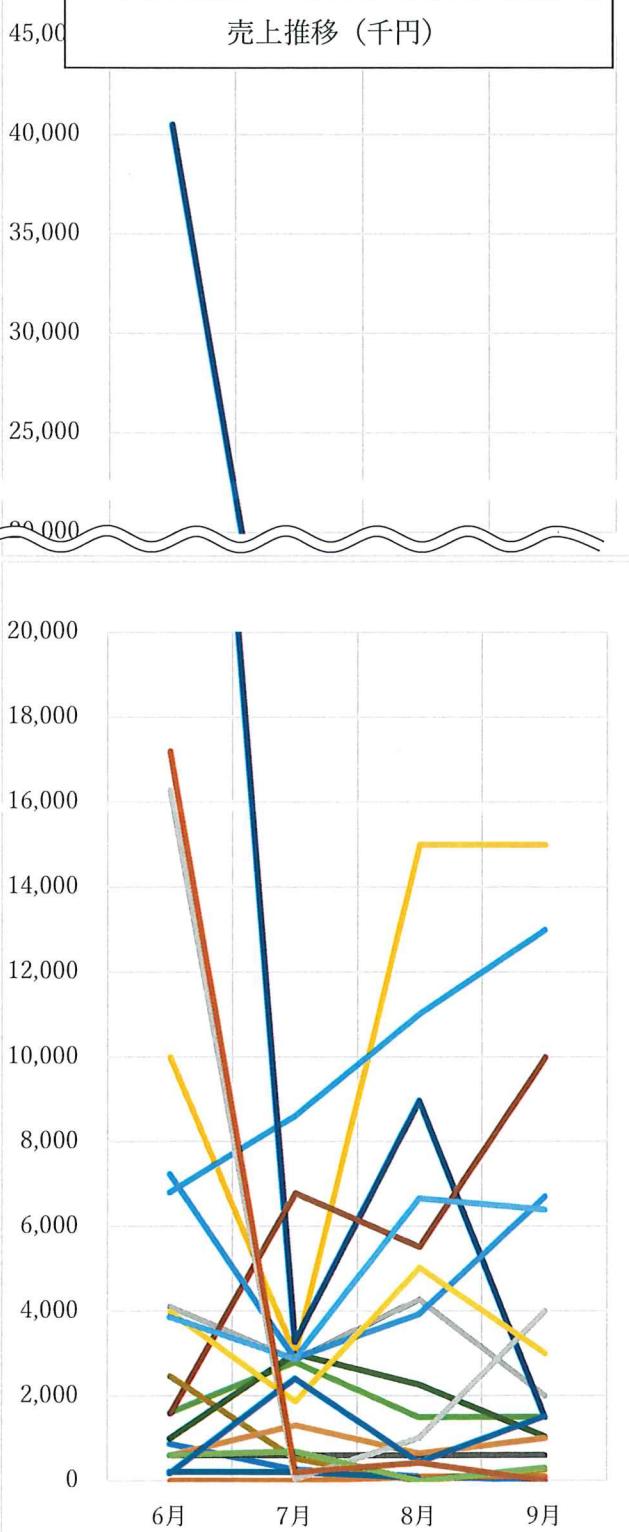
コメント

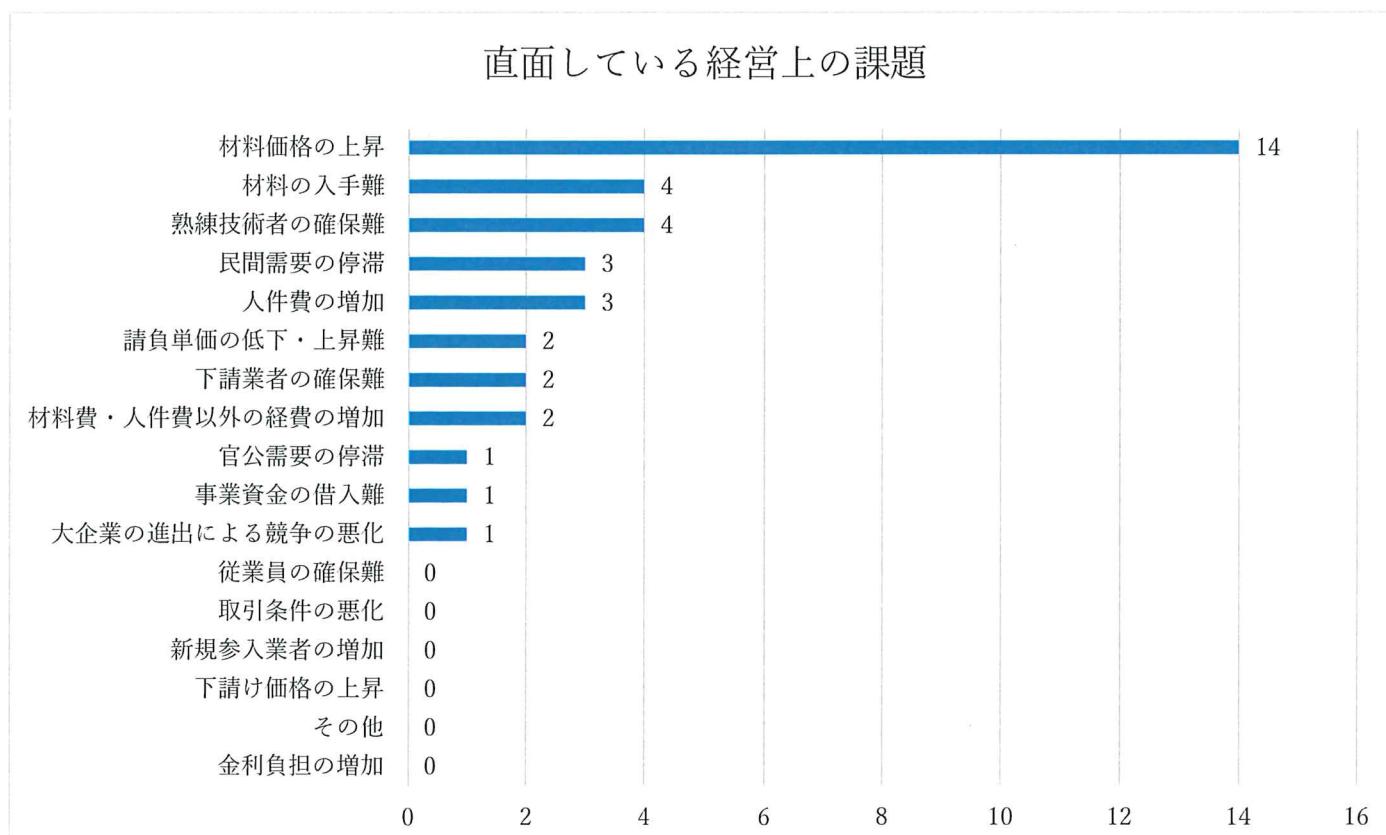
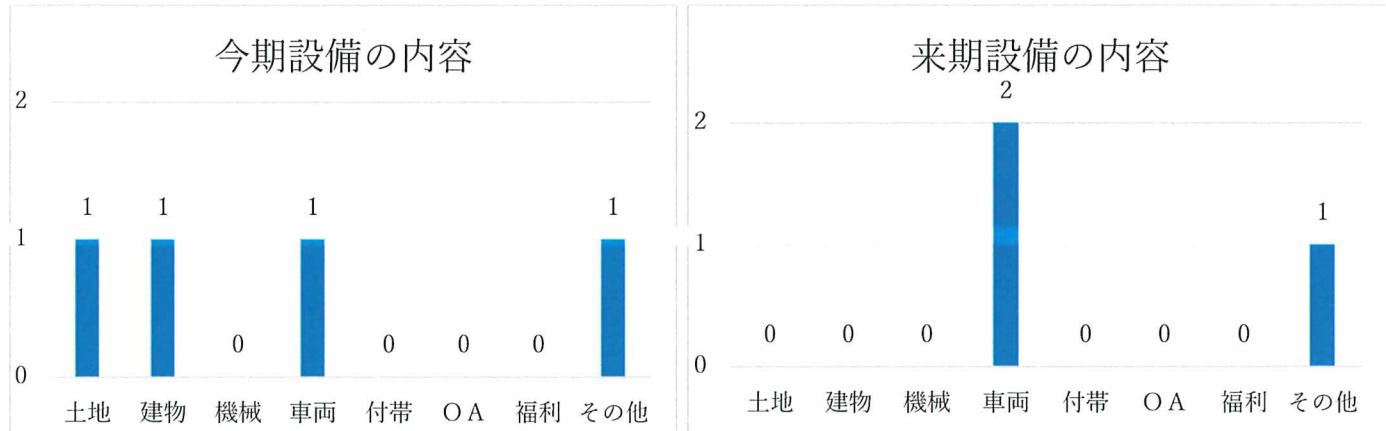
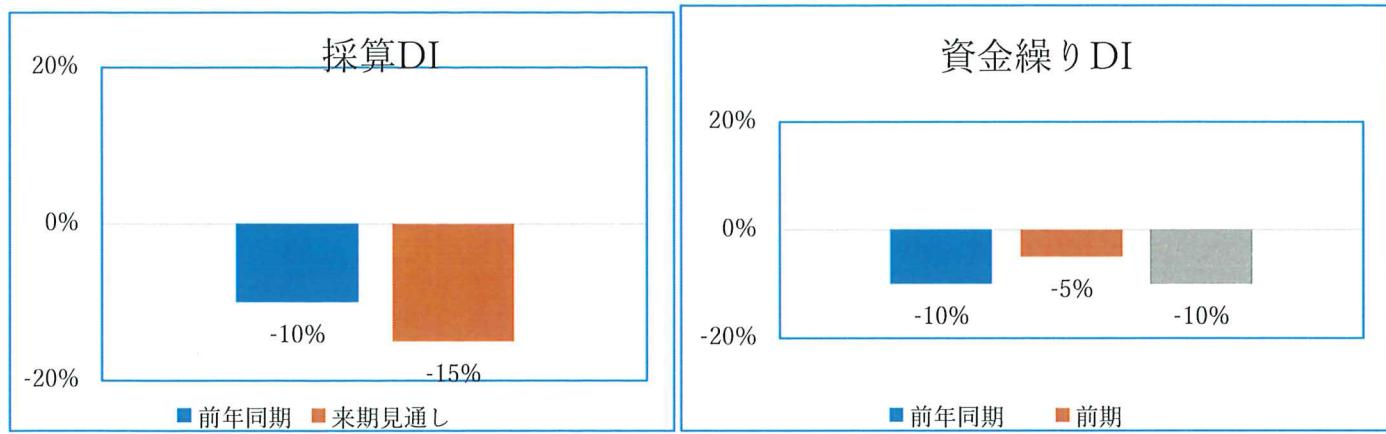
建設業の業況は、低調な状況が続き回復傾向が見えない。原材料価格等経費上昇の影響で採算面も厳しく、資金繰り面も厳しい状況が続いている。

完成工事高DIは前年同期+10、前期▲15、今後の見通しは▲10と低下傾向で先行きは厳しい。

材料原価上昇を上げる声が引き続き大きく、前年同期で値上がり+65、来期見通しも+45と上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲10、来期も▲15と不安の声が多い。資金繰りは前年同期▲10、前期比▲5、見通しは▲10と厳しい状況が続いている。設備投資を予定する声も少ない。

直面している経営課題として、材料の価格上昇と入手困難を挙げる声が多い。個別の企業の声としては、材料代の上昇が止まらず、元請への価格転換ができるいかないので、利益がとれずに困っている。技術者の確保が難しくなり、若手が職人になりたがらない現状があり、この先、行き詰まりが来ると思い何とかしたい。建築資材の価格上昇が止まらない。国は子育てエコホームや窓リノベなど補助金を出していますが、どれも予算の半分にも達していない。消費者の購入意欲の低下を感じる。大きい請負物件が続いているが先代からの口コミ営業に頼っているところがあり、営業形態の変革を心がけていきたいとの前向きな声もあった。



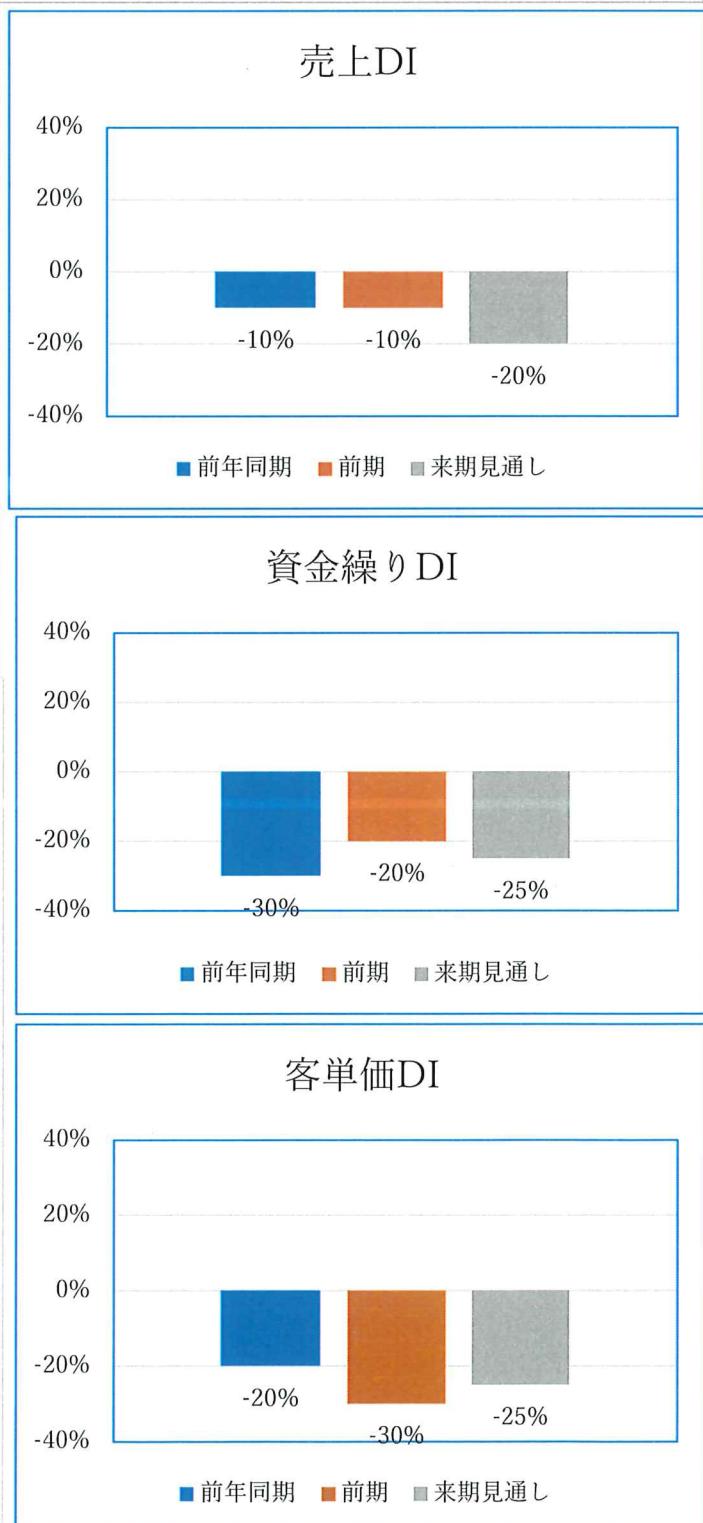
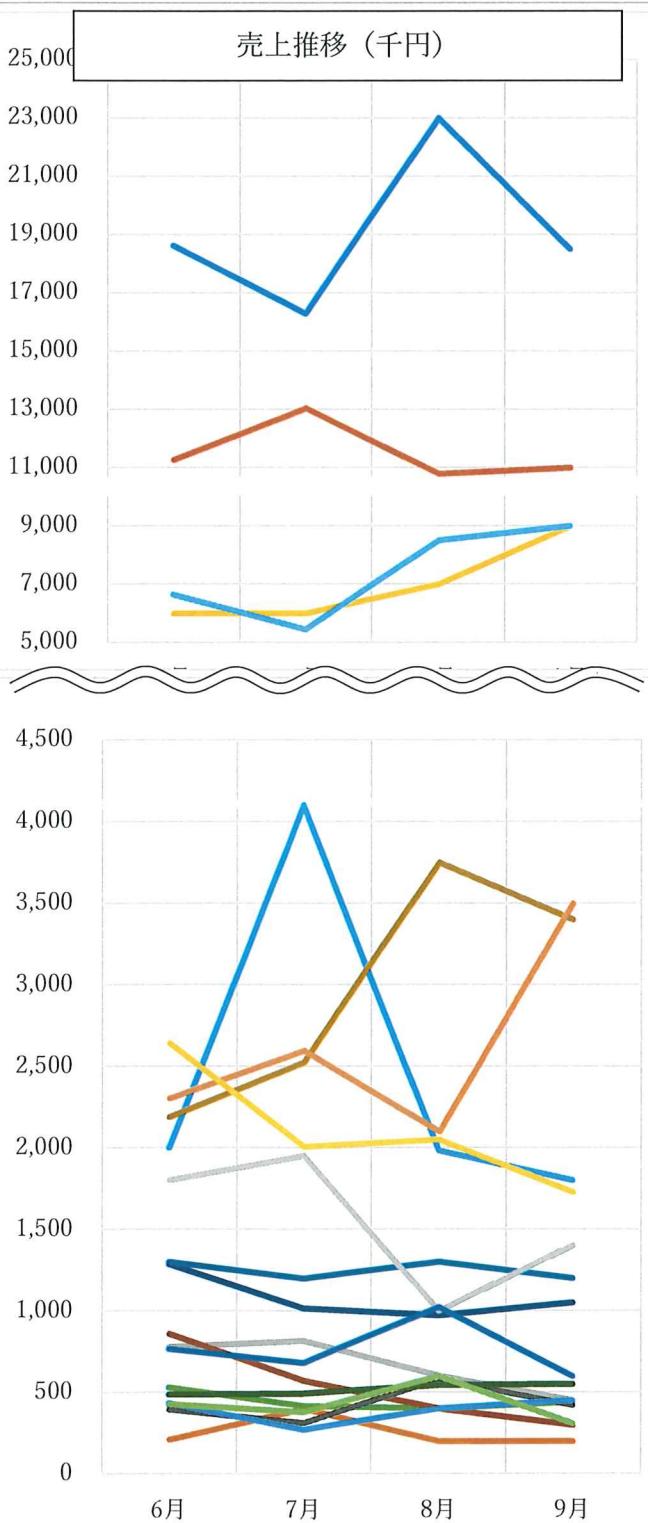


卸小売業（2024年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

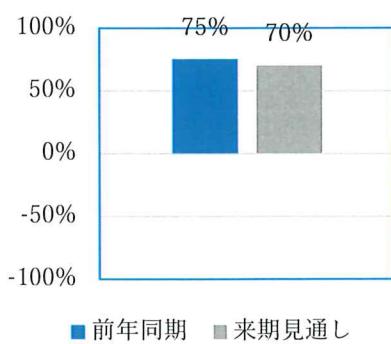
卸小売業の業況に関するDIは、低下傾向が続き、回復が見えない状況が続いている。仕入原価上昇の影響を挙げる声が大きい。売上DIは前年同期▲10、前期からは▲10と厳しい状況であり。来期の見通しも▲20と先行の見通しは厳しい。資金繰りDIについては前年同期▲30、前期▲20、来期も▲25で依然として厳しい状況である。客単価の減少傾向も続き前年同期▲20、前期▲30、来期見通しも▲25と水面下の推移である。仕入単価上昇を挙げる声が顕著で前年同期+75、来期見通しも+70と原価上昇が収益を圧迫している。借入難度の前年同期▲15、来期見通しは▲20と不安の声が増加している。直面している経営課題として、仕入れ単価上昇、販売単価低下と収益低下に関する課題を挙げる声が多い。

個別の声として、漁業関係の仕事上、湖面水温上昇に伴い魚の水揚げが変化しすぎて不安定である、異常な気温上昇でお客さんの出足が悪い。という声の一方、夏場の飲食が暑さも手伝いよく売れている。特に8月は前年比140%越えであった。と猛暑の影響が双方に出ていている。円相場の乱高下及び政府補助金引上げ等による仕入れ価格上昇。それに伴って販売価格への転嫁ができない。また、物価高騰のためなのか、代金回収が難しい客が多いという声もあった。

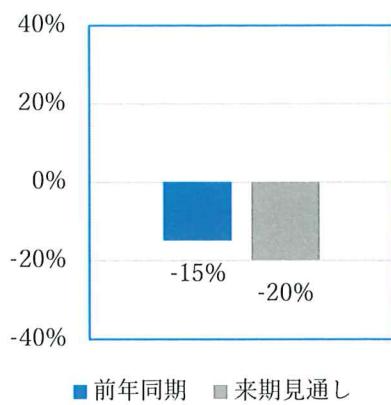


商品

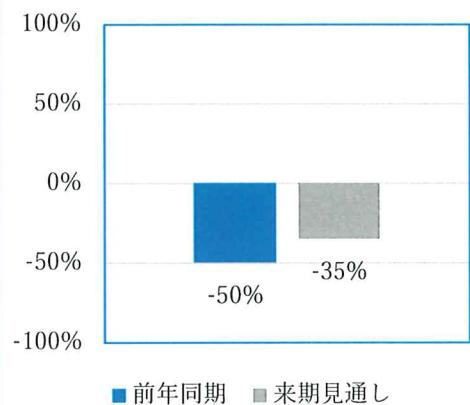
仕入単価DI



長期借入難度DI



採算（経常利益）DI



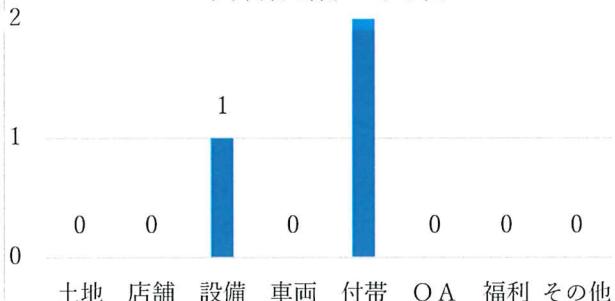
本期設備投資



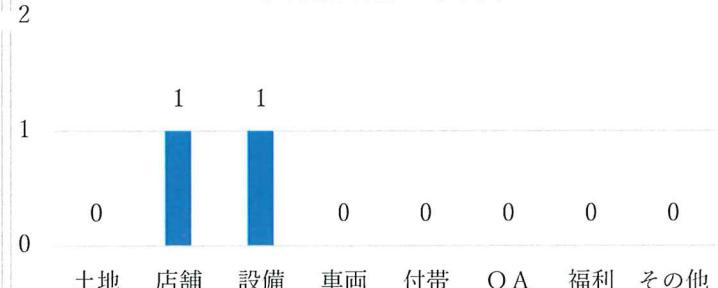
来期設備投資



本期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

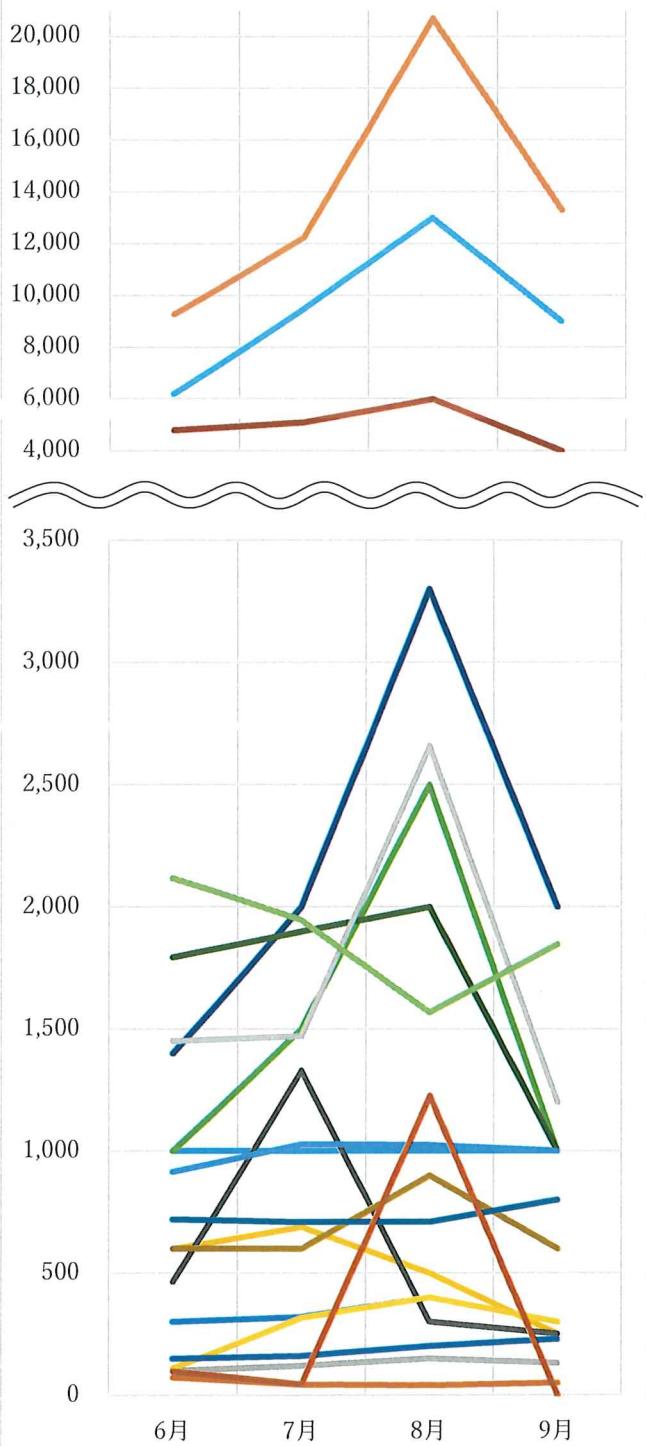


飲食宿泊業（2024年7月～9月）DI 値抜粋

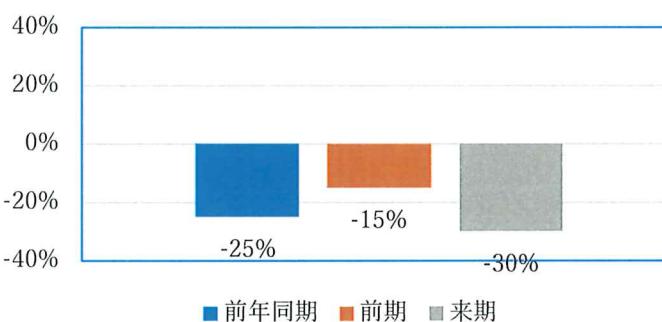
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、下げ止まりから再び落ち込みが見られる状況で、コスト上昇により採算が厳しい状況となっている。売上DIは前年同期▲25、前期▲15、来期は▲30と春先からの回復傾向が失速している。客単価DIは前年同期+10、前期+5、来期は▲15と先行き不芳の状況となっている。利用客数DI前年同期▲25、前期▲10、今後の見通しは▲25と客足が遠のく状況である。資金繰りDIは前年同期▲30、前期▲30、来期▲25と資金繰り悪化が続く。仕入単価の上昇は前年同期+75、来期見通しとも+80と原価上昇の状況が顕著で、採算は前年同期▲35、来期見通し▲45と厳しい見通しである。設備投資は前期に比較して増加している。経営課題には仕入単価の増加のほか、店舗設備の老朽化を挙げる事業者が多い。個別の声として、売上額は前年度に比べ増加傾向にあるものの、仕入価格が上昇し、収支バランスが悪く資金繰りが悪化の傾向にある。料金への転嫁が厳しい状況です。宿泊業が好調で人が動くようになり、観光地などの飲食店などにお客さんが戻ってきていている。地方の飲食店は少しずつだが仕事が入ってきていて、私の店でも仕出しや宴会も戻ってきていて回復している。という明るい声も聞かれる一方、売上が上がっている店と低調な店に開きが出てきた。田舎の方は難しい。という声もあった。

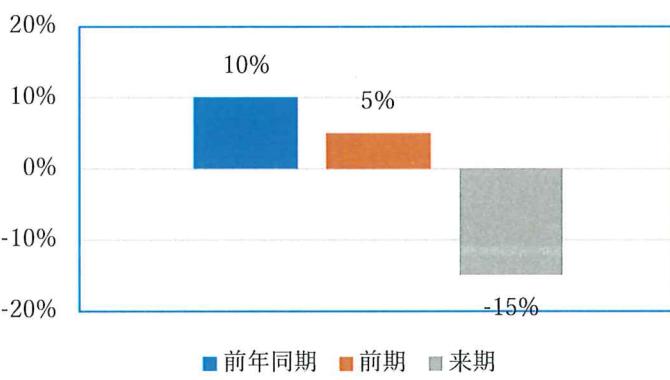
売上推移（千円）



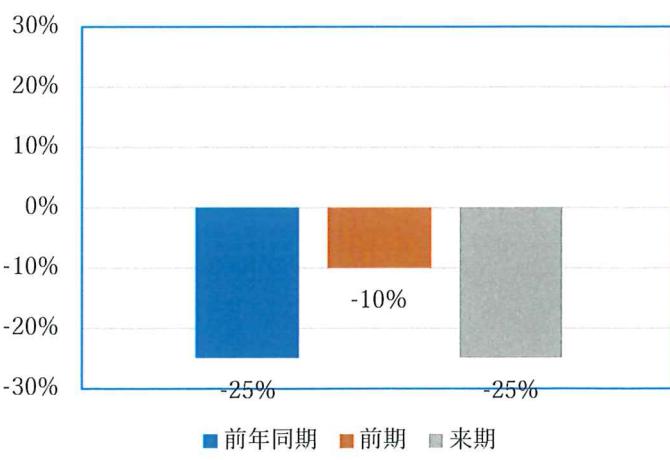
売上DI



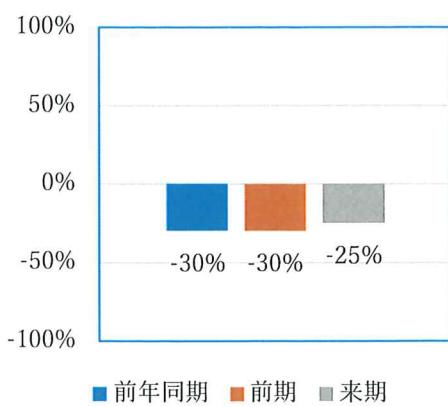
客単価DI



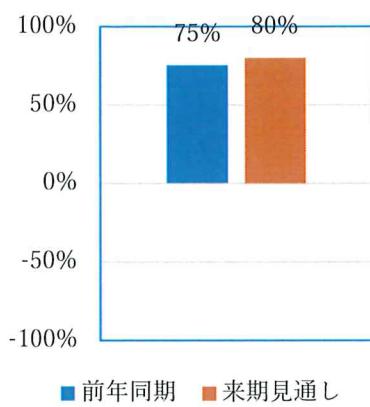
利用客数DI



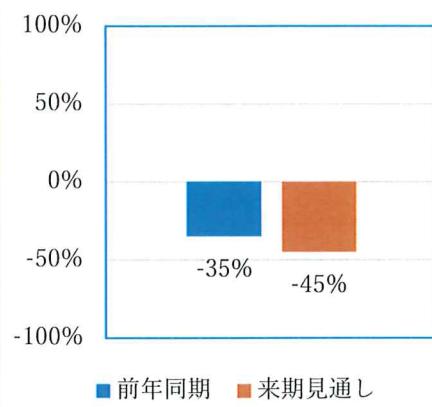
資金繰りDI



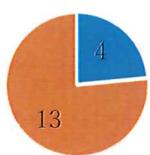
仕入単価DI



採算（経常利益）DI

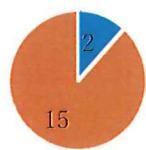


今期設備投資



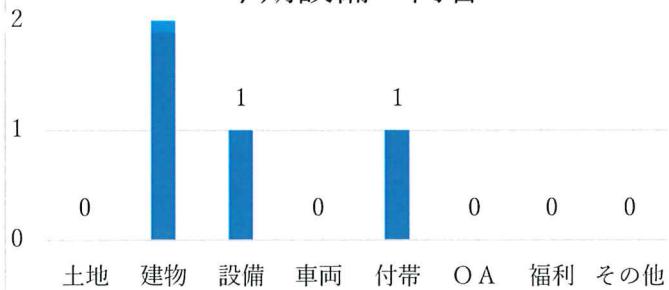
■ 実施した ■ 実施していない

来期設備投資



■ 計画している ■ 計画していない

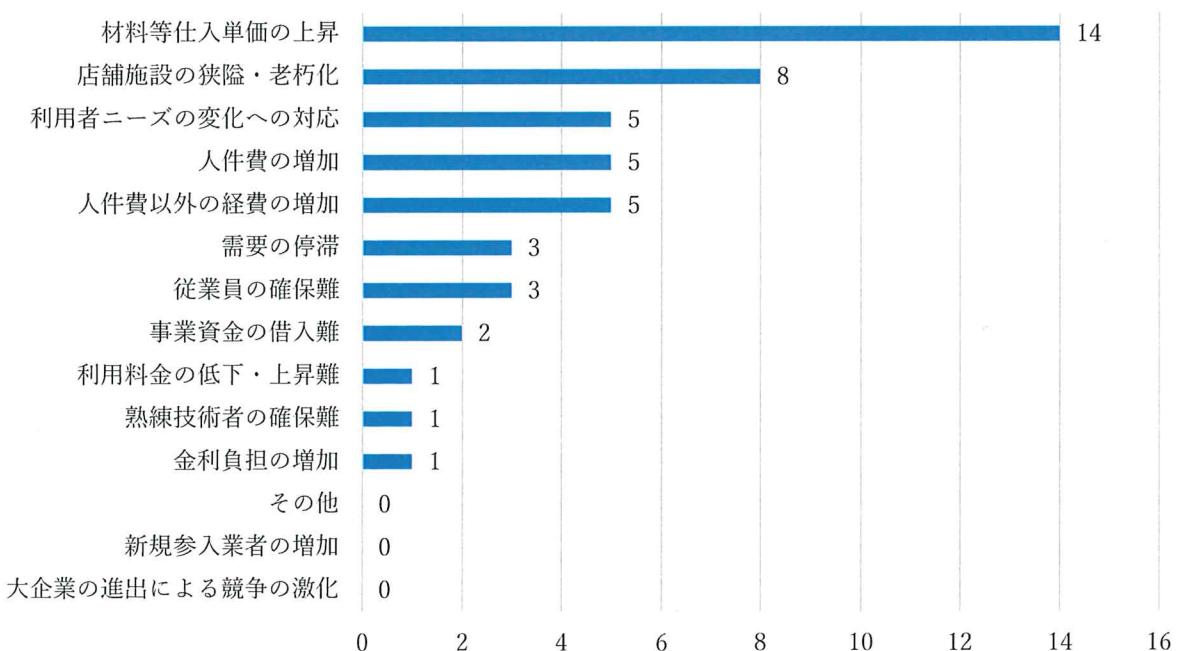
今期設備の内容



来期設備の内容



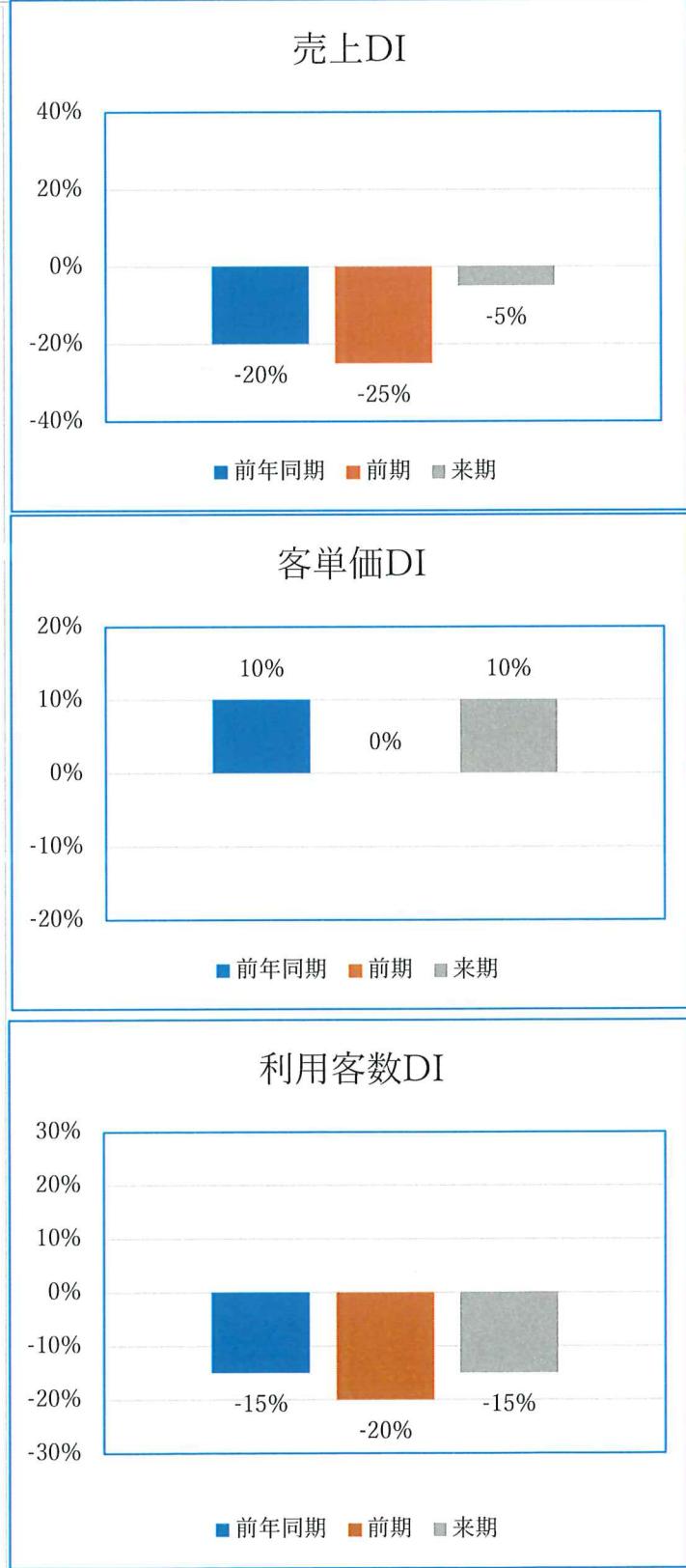
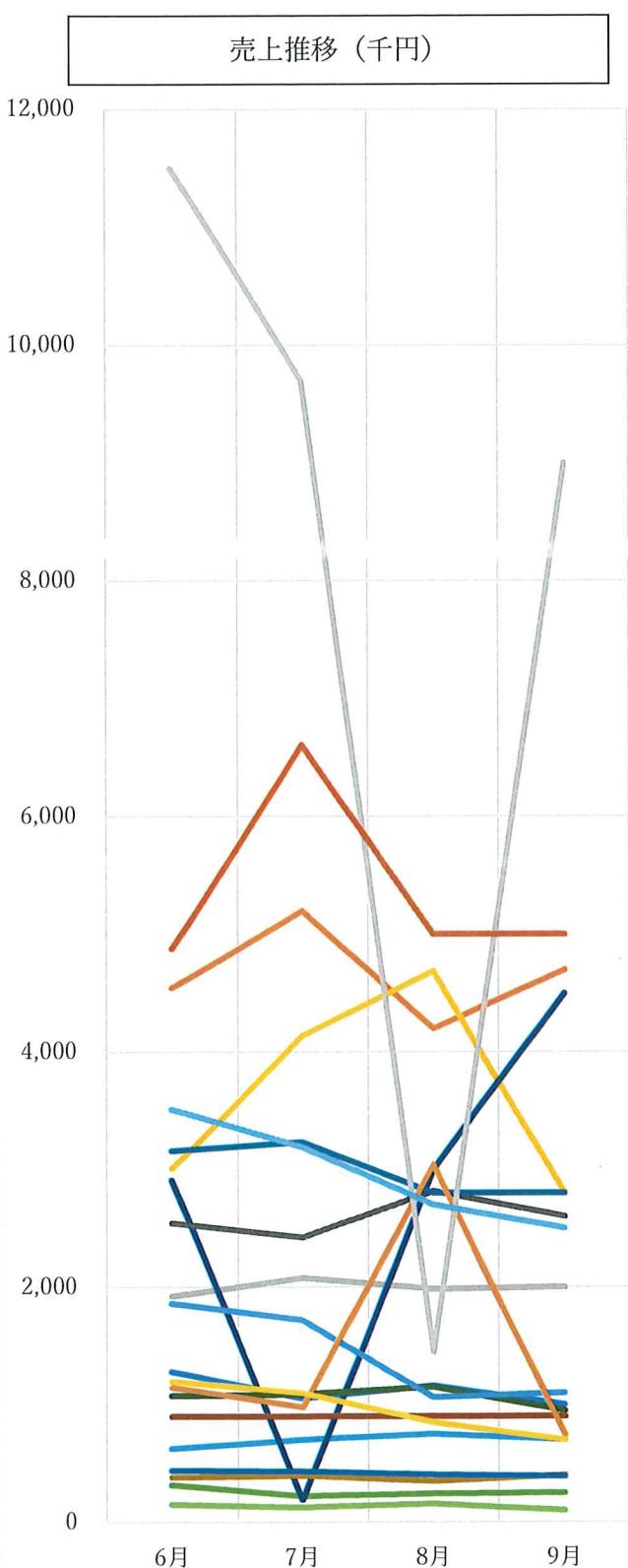
直面している経営上の課題



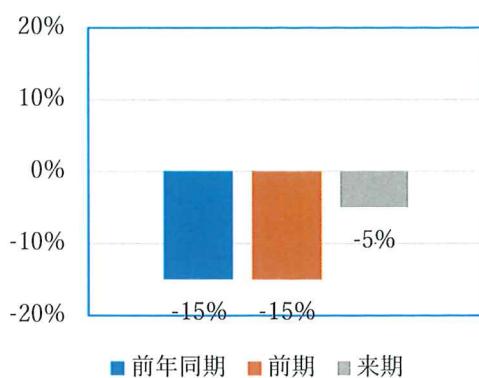
サービス業（2024年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

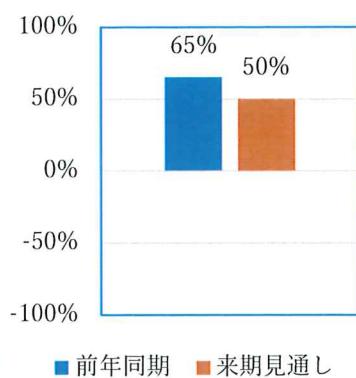
サービス業の業況は足元で厳しい状況があるが、先行きは下げ止まりの傾向が見受けられる。売上DIは前年同期▲20、前期▲25、来期見通し▲5と先行きは下げ止まりの状況である。客単価DIは前年同期+10、前期±0、今後の見通しは+10と拮抗が続いている。客数DIは前年同期▲15、前期▲20、今後の見通しは▲15と低調な状況が続く。資金繰りについて前年同期▲15、前期▲15、来期も▲5と低調である。仕入単価DI前年同期+65、来期見通し+50と原価上昇の声が多い。採算DIの前年同期▲20、来期見通しも▲20とコスト高による採算悪化が続く。設備投資も低調である。個別の声としては、美容室の数が増え続けているので、お客様を増やすことが難しい状況であります。同じく美容室で客数が年々伸び悩んでいる。客層はを変えたくない。物価高と、夏の暑さが来客難になっている。おまけに台風10号の影響など地合いがよくない。前期比では特に変化が見られないように感じる。10月から一部メニューの値上げを実施する予定なので、どう影響するかが今後の業況を左右すると思われる。といった声がある。



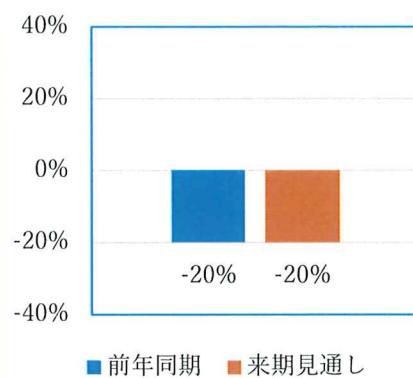
資金繰りDI



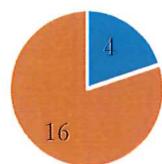
仕入単価DI



採算（経常利益）DI

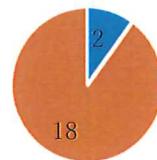


今期設備投資



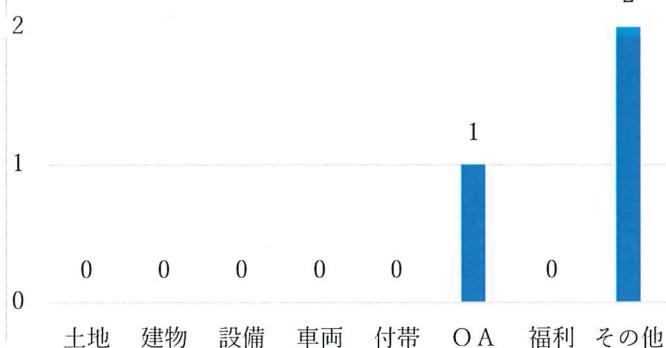
■ 実施した ■ 実施していない

来期設備投資

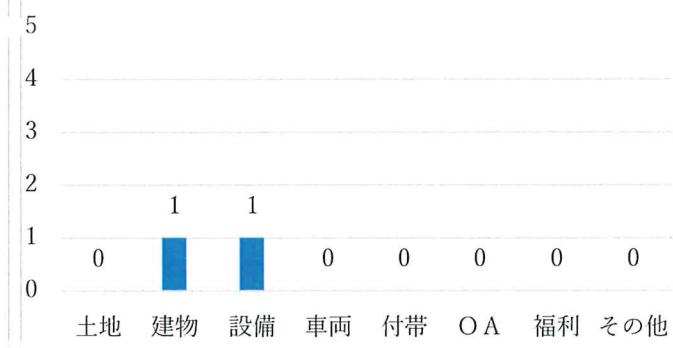


■ 計画している ■ 計画していない

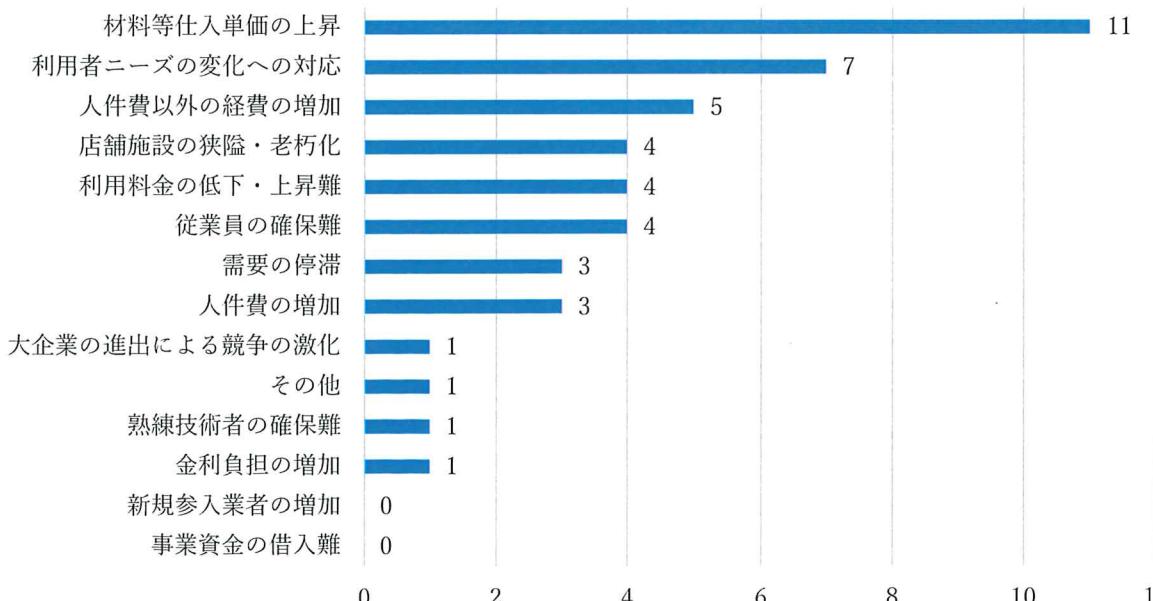
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



小規模企業景気動向調査 [2024年7月期調査]

～前月から一転して改善が見られるも、現状維持が続く小規模企業景況～

＜産業全体＞

7月期の産業全体の景況は、採算DIがわずかに上昇、売上額・資金繰り・業況DIは小幅に上昇した。主に、建設業におけるDIの大幅な上昇が全体のDIをけん引した。その他の業種のDIについては、全体的に現状維持といった状況であった。一部の業種において、コスト高に落ち着きが見られ、徐々に価格転嫁を進められていることが、DI値の低下傾向が止まつた一因としてあげられる。

DI	6月	7月	前月比
売上額	25	52	2.7
採算	▲17.7	▲16.1	1.6
資金繰り	▲16.4	▲13.1	3.3
業況	▲14.6	▲10.7	3.9

＜製造業(食料品、繊維、機械・金属)＞賃上げ機運の高まりへの対応が求められる製造業

製造業は、資金繰りDIが大幅に上昇し、その他のDIは変化がなかった。

食料品関連は、採算・資金繰り・業況DIが上昇した。繊維工業、機械・金属関連は、採算DIが小幅に低下し、食料品関連と比較すると、価格転嫁しづらい状況であることが窺えた。他業種に比べ、製造業全体で最低賃金の引上げにより、収益性が悪化することを不安視するコメントが多くあり、より一層、価格転嫁の重要性が高まってくると思われる。

DI	6月	7月	前月比
売上額	4.4	4.5	0.1
採算	▲16.6	▲16.9	▲0.3
資金繰り	▲21.6	▲14.3	7.3
業況	▲12.7	▲12.5	0.2

＜建設業＞悪天候・人手不足等の厳しい環境の中で、効率的な利益確保を目指す建設業

建設業は、売上額・業況DIが2桁ptの大幅な上昇となり、採算・資金繰りDIは小幅に上昇した。全DIが今年の4月頃と同程度の水準まで回復した。

要因としては、資材等の納期の安定化や、公共工事の受注が活発化し始めたことから、稼働率が高い事業者が増えたことがあげられる。一方で、ゲリラ豪雨や猛暑により作業がストップし、採算が悪化しているとのコメントが複数あり、悪天候の影響が様々な業種に及んでいる状況である。

DI	6月	7月	前月比
売上額	▲0.9	12.0	12.9
採算	▲20.0	▲15.8	4.2
資金繰り	▲16.4	▲12.0	4.4
業況	▲24.5	▲9.3	15.2

＜小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)＞天候の影響を最小限に抑えたい小売業

小売業は、採算・資金繰りDIがわずかに上昇し、売上額DIが小幅に低下した。

衣料品関連は、全DIが上昇した。猛暑の影響で、例年より売り上げが伸びているとのコメントがあった。食料品、耐久消費財関連は、売上額・業況DIが低下した。果物やエアコンなど、猛暑の影響により売り上げが伸びているものもあるが、物価高騰に伴う節約志向の影響が依然強い状況である。また、猛暑による外出控えや、天候不順による農作物の仕入れ量の不安定化について言及しているコメントが多くあった。

DI	6月	7月	前月比
売上額	▲1.5	▲4.3	▲2.8
採算	▲22.9	▲21.5	1.4
資金繰り	▲19.2	▲18.2	1.0
業況	▲17.0	▲17.0	0.0

＜サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)＞コスト高に負けず、インバウンド等の波に乗りたいサービス業

サービス業は、全DIに変化がなかった。

旅館関連は全DIが上昇した。インバウンド需要の増加に加え、新型コロナの5類移行から1年が経過したことから、夏祭りなどのイベントや、学生の合宿などが再開し盛況であるとのコメントが多くあった。クリーニング、理・美容関連については、価格転嫁を実施した結果、顧客の来店スパンが長くなったとのコメントが複数あり、顧客に納得してもらう形での価格転嫁の難しさが浮き彫りとなった。

DI	6月	7月	前月比
売上額	7.9	8.5	0.6
採算	▲11.0	▲10.3	0.7
資金繰り	▲8.5	▲8.2	0.3
業況	▲3.9	▲3.9	0.0

調査概要

・調査対象：全国303商工会の経営指導員（有効回答数：243/回答率80.2%）

・調査時点：2024年7月末

・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI（景気動向指数）は各調査項目について、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。